



1. 実質をともなった生産性の向上を
2. 中東の戦火は教える
3. 公害対策に思う

1. 春闘は史上最高のベースアップをもって終わった。ここ数年来企業の生産性を上まわっての賃上げが、コスト プッシュ インフレーションを促進しているという。建設業も年々人件費がかさみ、工事単価が高くなってゆく傾向にある。各業者とも工事原価を低めるよう懸命であるが、他産業に比べその努力がどれだけ真剣になされているだろうか、われわれとして反省を試みる余地はなしとはいえない。

土木工事における真の生産性向上は、計画、設計、施工の各段階が三昧一体となって初めて達成されるが、おのおのの担当が事業主、コンサルタント、業者という具合にはっきり別れすぎる傾向が強くて、有機的な関連が次第に失なわれつつあるのではなからうか。

業者の立場からみても、生産性高低の幅に比べて危険負担の幅が大きく、何よりも現在の入札制度下では指名を受けることが先決であり、また生産性を向上しても事業主の利益に還元されるケースが少なくない。コンサルタントでは、仕事の質より量が生産性のパラメーターとなり易く、事業主もぼう大な事業の遂行に目をうばわれて、土木事業全体の生産性についての関心は十分といえるだろうか。

6月2日外資審議会から資本取引の自由化についての答申が出されたが、建設業は地理的な離隔、対人関係、公的投資のシェアの高さといったハンディ キャップで外資からも守られており、日本といういわば閉鎖的な市場の中で甘やかされがちではなからうか。これらの問題をどう解決し改善してゆか、現段階ではやはり事業主が最も真剣に考えるべき問題であると思う。 [J]

2. くすぶり続けていた中東に火の手が上り、6月5日アラブ系9ヵ国とイスラエルは戦闘を開始した。

中東は人類文明の発祥の地の一つである。マホメットとその後継者たちがサラセン文化をつくり上げ、この文化はイスラム教を中心にインド、ペルシャ、シリア、ギリシャの各文明を融合し、後のヨーロッパ文明に強い影響を与えた。彼等の『零の発見』により代数学が完成するなど、自然科学の各分野にいちじるしい進歩を示すとともに、紙や羅針盤を実用化した。ドームと尖塔のある美しい寺院の建築は今も当時の技術の高さを物語っている。戦争は、古代においては築城、築堤の技術の進歩を余儀ならしめた。第二次大戦ではブルドーザー、パワー ショベルにより代表される大型建設機械の出現が土工技術を根本的に変貌させた。

しかし近代戦争はとみに破壊のはげしさを加え、莫大な資金、資源の浪費をとめない、戦の後に残るのは廃墟と貧民のみとなるであろう。世界各国の民族が自己の一時的な利益や、過去の栄光にあこがれて戦争をする時代は去ったはずである。1tの爆薬は3万m<sup>3</sup>の岩石を破碎し、1lの軽油は6t積のトラックに材料を満載して6kmの道を走らせることができる。戦争に投入する強大な人的、物的エネルギーを、最多数の最大幸福のための世界を建設するべく用いてもらいたいものである。 [S]

3. 公害対策基本法案の国会審議が6月16日から開始された。水質汚濁、騒音、振動、大気汚染など種々の公害があるが、とりわけ大気汚染による公害病患者の発生は最も重大事であり、自殺者まで出たことが新聞で報道されている。麦飯は食べた方がむしろ健康によいが、汚い空気だからといってこれを吸わないわけにはゆかない。気管支ぜんそくの苦しさは、患った者でなければわからない。公害防除には多額の費用を要し、都市再開発にいたってはそうたやすくできるものではない。しかしせめて患者に対する治療費、生活保障費などは簡単に解決がつかずである。現実には国、地方自治体、企業間の費用分担の問題、無過失責任の問題があるが、責任のなすり合いなどで事態を引き延ばしておくようなことでは、人間不在の公害対策といわざるをえない。生活と経済発展の調和をはかることは結構なことだが、「人間優先」の対策を明確に打ちだして、それでちょうど良いくらいの結果になるのである。要は「生活権」でなく「生存権」の問題だからである。 [C]